

自ら学ぶAI創造

95 7

「成功に必要なものはデータだ。データなしでは学習ができないため

学習、制約を超える

「継続的に考えるAIを創造することだ。学舎では20年前から機械学習(マシン・ラーニング)や強化学習(リインフォースメント・ラーニング)に焦点が当てられていたが、最近では産業界でも注目が集まってきた」

「コジタイ設立の目的は何ですか。」

「継続的に考えるAIを創造することだ。学舎では20年前から機械学習(マシン・ラーニング)や強化学習(リインフォースメント・ラーニング)に焦点が当てられていたが、最近では産業界でも注目が集まってきた」

「経験からデータ収集」

ソニーと次世代の人工知能(AI)を共同開発する米ベンチャー企業 コジタイ(カリフォルニア州)。ビッグデータ解析など高度なIT(情報技術)の利用が広がるなかで、大規模なデータ解析から特徴を発見する深層学習(ディープラーニング)などでAIは新たなステージを迎えている。ソニーと次にどんな世界を目指すのか。ピーター・ストーン社長に狙いを聞いた。(1面参照)

ストーン・米コジタイ社長に聞く



Peter Stone 米カーネギーメロン大学でコンピュータサイエンスの博士号取得。米AT&Tラボで人工知能を研究した後、テキサス大コンピュータサイエンス学部で、12年から教授。ソニーの北野氏が提唱したロボットの競技会「ロボカップ」の創設時から参画している。44歳。

「長い時間をかけて醸成した信頼関係に加え、ベトナム型ロボット『AI-BO』を開発した実績もある。ソニーはハードと

「なぜソニーと組み、どんなAIを開発するのですか。」

「継続的に考えるAIを創造することだ。学舎では20年前から機械学習(マシン・ラーニング)や強化学習(リインフォースメント・ラーニング)に焦点が当てられていたが、最近では産業界でも注目が集まってきた」

「継続的に考えるAIを創造することだ。学舎では20年前から機械学習(マシン・ラーニング)や強化学習(リインフォースメント・ラーニング)に焦点が当てられていたが、最近では産業界でも注目が集まってきた」

「長い時間をかけて醸成した信頼関係に加え、ベトナム型ロボット『AI-BO』を開発した実績もある。ソニーはハードと

「なぜソニーと組み、どんなAIを開発するのですか。」

「継続的に考えるAIを創造することだ。学舎では20年前から機械学習(マシン・ラーニング)や強化学習(リインフォースメント・ラーニング)に焦点が当てられていたが、最近では産業界でも注目が集まってきた」

「継続的に考えるAIを創造することだ。学舎では20年前から機械学習(マシン・ラーニング)や強化学習(リインフォースメント・ラーニング)に焦点が当てられていたが、最近では産業界でも注目が集まってきた」

1988年	ソニーコンピュータサイエンス(ソニー-CSL)研究所設立
93	初めてのロボット試作機開発
97	北野宏明ソニー-CSL社長が提唱するロボカップが初開催
99	AIBO発売
2003	二足歩行ロボット「QRIO(キユリオオ)」発表
04	ソニーインテリジェンスダイナミクス研究所設立
06	ソニーインテリジェンスダイナミクス研究所を閉鎖し、本社に取り込むAIBO生産終了
16	コジタイと次世代AIを開発

「安全性を重視している。子供にベビーベッドを薦めるのと同様に、AIが探求をする範囲を

「機械学習(マシン・ラーニング) 人工知能の計算手法の一種。コンピュータ自身が与えられたデータの中から特徴やパターン、法則性を見いだすことができる。よくなる。法則性に基づいてデータを分類したり、現状を分析したりする。将来を予測をしたりする。」

「強化学習・深層学習 機械学習の一種でコン

人間の能力拡張

「人間に信託を及ぼす可能性はないのではありませんか。」

「人間の能力を拡張するものだ。移動の速度という意味で、自動車や航空機が人間の移動を補強するのと同じだ。人間とAIの適切なバランスを作り出すことが重要な課題だ」

「安全性を重視している。子供にベビーベッドを薦めるのと同様に、AIが探求をする範囲を

「安全性を重視している。子供にベビーベッドを薦めるのと同様に、AIが探求をする範囲を

「AIが人間にとって代わるという考え方は間違っている。人間とAIは得意分野が異なる。AIは人間の能力を拡張するものだ。移動の速度という意味で、自動車や航空機が人間の移動を補強するのと同じだ。人間とAIの適切なバランスを作り出すことが重要な課題だ」

(聞き手は多田俊輔)

媒体名	朝日新聞
掲載日	2016.5.19
	9

ソニー製品 頭脳的に?

米AI開発に出資 95-9

ソニーは18日、人工知能(AI)開発の米ベンチャー「コジタイ」に出資し、共同研究すると発表した。出資額は非公表。家電などにAIが組み込まれる時代を控え、外部の知見を取り込む狙い。

かつて販売した犬型ロボット「AIBO(アイボ)」には顔や音声認識の機能が搭載され、テレビやデジタルカメラに応用された。ソニーは今回の共同研究の成果を、今後の製品に生かす考えだ。

媒体名	毎日新聞
掲載日	2016.5.19
	6

ソニー、米AI企業に出資

ソニーは顔や声を認識する大型ロボットのAIBO（アイボ）や人型のQRIO（キューリオ）を開発したが、2006年にロボット事業から撤退。ただA

ソニーは17日、人工知能（AI）開発ベンチャーの米コジタイ社への出資を発表した。AIの新技术を共同開発し、3年以内に技術を応用した製品の美用化を目指す。かつて手掛けていたロボット開発の再開につながる可能性もある。

【ニューヨーク共同

新技术を共同開発 ロボット事業再開も

コジタイは継続学習するAI研究が専門のマーク・リング博士がテキサス大の教授として昨年設立した。ソニーの出資比率は20%程度とみられる。

I研究は継続し、スマートフォンやゲーム機に応用している。

ソニーによると、開発チームは「好奇心を持つAI。自律的に学習を深めるAIの開発や、芸術的な写真を好み撮影者に合わせて露光時間などを自動調整するカメラの開発も視野に入れている。

媒体名	産経新聞
掲載日	2016.5.19
	10

○ソニー、米のAIベンチャーに出資

ソニーは18日、米国の人工知能（AI）ベンチャー、コジタイ（カリフォルニア州）に資本参加し、次世代AIの開発を共同で推進すると発表した。出資比率は非公表だが、非常勤取締役を出す。コジタイは米AI研究者3人が2015年9月に設立。深層学習と強化学習を組み合わせた「深層強化学習」をベースに、予測・検知技術を応用して従来のない汎用（はんよう）的な学習能力を備えたAIの研究開発に取り組んでいる。ソニーは同技術を組み込んだAI製品を3年後をめどに実用化したい考えだ。

媒体名	フジサンケイ ビジネスアイ
掲載日	2016. 5. 19
	6

ソニーが米AI企業に出資 95.6

ソニーは18日、米国の人工知能（AI）ベンチャー、コジタイ（カリフォルニア州）に資本参加し、次世代AIの開発を共同で推進すると発表した。出資比率は非公表だが、非常勤取締役を出す。

コジタイは米AI研究者3人が2015年9月に設立。深層学習（ディープラーニング）と強化学習（リインフォースメントラーニング）を組み合わせた「深層強化学習」をベースに、予測・検知技術を活用して従来にはない汎用的な学習能力を備えたAIの研究開発に取り組んでいる。ソニーは同技術を組み込んだAI製品を3年後をめどに実用化したい考えだ。

媒体名	化学工業日報
掲載日	2016.5.19
	7

ソニー、米AI
企業に資本参加
ソニーは、米子会社の
ソニー・コーポレシヨ
ン・オブ・アメリカを通
じ人工知能(AI)に
特化した米コジタイ社に
資本参加すると発表し
た。同社とアイ・リ
インフォースメント・ラ
ーニング(深層化学習)
技術に予測・検知技術を
応用し、次世代の人工知
能に関するアプリケーシ
ョンや、製品群の基礎と
なる新たな人工知能技術
を共同で開発する。

電 波 新 聞

2016. 5. 19

米の人工知能
開発会社に出資
95-1 ソニー
ニューヨーク時
事 ソニーは17日、人工
知能(AI)を開発する
米有刀ベンチャーである
コシタイに出資すると発
表した。自ら考えて継続
的に学習する次世代のA
Iを共同開発する。
コシタイはAIやロボ

ット開発で世界トップレ
ベルの研究者であるピー
ター・ストロン・ナキサ
ス大教授ら3人が15年9
月に設立。ソニーは20%
程度を出資し、取締役も
派遣する。
ソニーは3年後をメド
に、次世代AIを家電な
どの製品に幅広く活用す
ることを目指す。

媒体名	日本経済新聞
掲載日	2016.5.19
	14

- 日経産業新聞から 19日
- ▶ AI開発、ソニーの相棒
米ベンチャー、コジタイの潜在力
- オリガミ、スマホ決済で広告配信
 - 東京女子医大、脳腫瘍に照射自在
 - カシオ計算機、電子辞書に新機軸
 - 小型風力発電の販売、参入相次ぐ
 - TDK、小型軽量のネオジム磁石



日経産業新聞モバイル

携帯電話に記し全文配信

媒体名	THE JAPAN TIMES
掲載日	2016. 5. 19
	6

IN BRIEF 95

Sony Corp. invests in U.S. AI venture

KYODO

Sony Corp. said Wednesday it has invested in U.S. artificial intelligence startup Cogital, aiming to develop new AI technologies and release products within the next three years.

Sony is believed to have obtained a roughly 20 percent stake in the company that was founded in September by three AI researchers. The move could lead to the electronics giant re-entering the robot business.

Sony was an AI pioneer, known for producing robotic dog AIBO and humanoid QRIO featuring AI technologies. But it withdrew from the robot business in 2006 to improve profitability and restructure its consumer electronics business.

The firm has continued AI research, however, and its technologies, including face and speech recognitions, have been applied to other Sony products, such as digital cameras and smartphones.